和田の世帯数・人口

世帯数	1,396戸
人口	4,111人
男	1,988人
女	2,123人

（平成27.1.1現在）

伸びよ子供達　輝け若者達

今年もよろしくお願いします！！

楽しかった健康スポーツ教室

ぼくは、毎年芝沢体育館で11月～12月の毎週月曜に行われる健康スポーツ教室に参加しています。今回で2度目の参加になりました。卓球とバトミントンがあり、ぼくは卓球に参加しました。毎年この健康スポーツ教室を楽しみにしています。理由は、年齢性別関係なく楽しくスポーツができるからです。地域の方に良く教えていただき、少しずつ上達してきました。いつも友達の吉田伊吹さんと卓球をやっています。速いラリーが続くと、とても楽しいです。これからも地域の行事に参加していきたいと思います。

蘇我　山下 知真（小5）

卓球

バトミントン

私は、バトミントンに、ほ育園のころから来ています。

青木先生（前公民館長）に相手をしてもらいながらサーブなどの打ち方を教えてもらいました。毎年来ているうちにだんだんかえせるようになってきたのでうれしかったです。今年は人数が多くなってよかったし、かえせるといっぱい続くので楽しいです。来年ももっと強くなって大人の人にいどみたいと思います。

蘇我　進藤 菜月（小3）

そば打ち

私は、和田公民館でそば打ちをやりました。

手順は、水回し→くくり→練り→菊もみ→へそ出し→延し→まる出し→四つ出し→巾だし・肉分け巾を出す→本延し→たたみ→包丁→くちあけの順番です。特にむずかしかったのは水回しで、小麦粉とそば粉をきき手で粉がまわないようやさしく混ぜます。計量カップの水が三ミリ位残るように水を入れます。素早く、大きく指先でかき混ぜ全体に水をいきわたらせます。綿ほこり状のそば粉が飛ばなくなったら指先に付いたそば粉をとります。この時私の手についたそば粉は、取りにくく固いねんどみたいになっていました。

次にむずかしかったのは、へそ出しです。菊もみはやってもらいました。へそ出しは、横に倒し回転させ、さらにしわを小さくし、空気を抜く作業です。この作業も力がいるので大変でした。（円すい形、上手くつくれるかな？）と心配でしたが、しっかり円すい形にできたので本当によかったです。ねんどみたいに固くて、手作業なのでつかれました。

失敗してしまったこともありました。四つ出しは、やってもらいましたが、巾だし・肉分け巾を出すから本延しにかけて指できじに穴をあけてしまったのが失敗でした。

何回かそば打ちはしたことがありますが、こんなにたくさんのことを自分でやったことはなかったので、いいけい験になってよかったです。

西原　野村 綾夏（小5）

「ねんどみたいになってきた！」
「上手！いい感じだよ」

成人式を迎え

衣外　上條 雄輝

私は、今、親元を離れ大学の電気電子工学科で、身近にある機器に組み込まれている回路の仕組みや、いろいろな場面で生活を助けてくれる電気について勉強をしています。この分野を通じ大勢の友達や先輩・先生方と知り合うことが出来ました。まだまだ学ぶことがたくさんあると感じています。

成人式を迎え、あと少しで就職活動が始まります。成人としての実感は、まだまだ湧いてこないというのが正直な気持ちです。今まで学んだこと、経験したことを生かし、一歩でも成人としてふさわしくなれるように、これからは今までにない自分を出していきたいと思います。

文化講演会「子どもを取り巻くネット社会の現状」を聴講して

このテーマを聞いて小学生の息子がいる私はすぐに興味を持ちました。なぜならネットに関連した子どもの事件は度々ニュースになるからです。今までパソコン以外にもスマホやゲーム機等でネットに接続可能な事は知っていました。しかし、街中の無料無線LAN（WiFi）スポットを利用してネットに接続している子どもが少なくない事には驚きました。今までは子どもにネットを使わせるべきではないという空気がありましたが、これだけネット環境が溢れている今、否定するだけでは子どもを守る事はできません。そういう流れから教育委員会もネットの正しい使い方を教える方向に考え方を変えたようです。

私たち親も正しい使い方を知らなくては子どもに教える事はできません。今回の講義を通じて、私自身がネットの使い方を正しく知らねばと改めて感じました。これからは子どもの手本となるよう、子どもと一緒にネット社会に向き合っていきたいと思います。

下和田　後藤 たみこ

しめ縄作り

12月20日（土）、中町会の上條康敬さんを講師に「しめ縄作り教室」が開催されました。

「しめ縄の由来と意味」「飾る時期」「飾り方」などの話を聞いた後、実演を交えての説明を聞いて、縄ないから取りかかりました。左ないが基本ということで、熟練者はどんどん作っていましたが、初心者は苦労していました。それでも、講師の手取り足取りの指導で、全員がしめ縄を作ることができました。その後「ごぼう〆」「おやす」を作り、「紙垂」の切り方を教わって終わりました。

「ハイ！わらどうぞ」

連凧作り

12月6日（土）、和田公民館で連凧作り教室が開かれました。講師は、凧作りの達人の二木重光さん。参加者は10人程と少人数ながら、和やかな雰囲気の集まりとなりました。

最初に、三郷小学校の児童と作ったという2000個の連凧の写真を見せて頂きました。「わあ、すごいですね。」と家族で参加されたお母さんが感心していました。

次に、凧の仕組みについての話がありました。それから一工程ずつ具体的な説明を聞いて凧作りの作業を進めました。ビニールに骨組みとなる竹ひごを貼ったり、凧糸に金具をペンチで固定したりと、子ども以上に大人の方が真剣になっていました。糸を通す穴を開ける際は、火をつけた線香でビニールに穴を開けました。子どもはマッチで火をつけるのが珍しいようで、「すごーい！」と声を上げていました。穴開けをやらせてもらい「もっとやりたい」と楽しそうでした。

続いて、運動公園で雪の降る中、凧あげです。参加者全員の凧が上手く風にのり、空高く揚がりました。

最後に、カレーライスを皆で頂き、お腹も満足してお開きとなりました。

西原　丸山絵理

こうやってビニールに竹ひごを貼るんだよ

和田歌碑公園の碑 その3 川崎杜外

古見山にならぶ棚ぐも
いつしかにしぐれのあめと
降るゆふべかも

【西の方、（朝日村の）古見の山の上の空一面に雲が広がり、気がつくといつの間にか時雨が降る（秋の）夕暮れ時になっていることですよ】

和田歌碑公園　川崎杜外の碑

歌集「山守」所収▶

川崎杜外は、明治17年（1884年）10月1日、東筑摩郡和田村中区（現松本市和田）に生まれました。本名は左右、父千代蔵、母かつえの長男で、4人の弟と3人の妹がいました。

明治31年和田小学校高等科を経て松本中学校（現松本深志高等学校）に入学しますが退学し、翌年4月和田小学校の雇教員となります。6月には退職し、翌33年水穂が組織した短歌同好会「この花会」が誕生するとその会員となります。同年長野県師範学校に入学し、翌34年卒業と同時に和田小学校準訓導として赴任します。

37年和田小学校退職後は、早稲田専門学校で学んだり、信濃民報社や和田村役場に就職したり、家業の農業に取り組んだりしますが、この間ずっと作歌活動を続け、新聞・雑誌の短歌選者として活躍します。また、窪田空穂が主宰した「國民文學」を通して研究・歌作を盛んに発表しますが、昭和9年（1934年）年8月15日、49歳で亡くなりました。

物知りクイズ

前号の答え

1高綱中学校は、**昭和28年**（1853年）4月8日和田村・新村・島立村三か村の組合立中学校として開校、29年8月から松本市立となり現在に至っています。

2**イ**　スズメバチの巣の外皮は、朽木の木質部や生きた樹木の樹皮をかじり取った物を、唾液と混ぜ団子状にして巣に持ち帰り、それをかみ砕いた後、大あごと前足を使って薄く延ばしながら表面に貼って作ります。

今回の問題

1【和田】という地名は、全国的に珍しくなく県下でもいくつかの所に存在しています。それでは、この辺りのことが最初に文書で【和田】と記されたのはいつ頃でしょうか。

ア　平安時代
イ　鎌倉時代
ウ　江戸時代

2 写真のように地面に大きく葉を広げ、太陽の光と熱をより多く受け止め、冬越ししようとしているタンポポの葉の形をなんというでしょうか。（答えは次号で）

タンポポの冬越し

編集後記

36年前の10月、朝日村の鉢盛山に登りました。頂上に着くと、谷を隔てた目の前に黒煙を上げる山。「なぜこんな所に浅間山が!?」混乱、驚愕しましたが、有史以来初めての御獄山噴火の日でした。

昨年は近辺に災害の多い年でした。新年にあたり、各地の復興を祈ると共に、共助の地域づくりに目を向けていきたいと思います。

衣外　上條晶子